

総務文教常任委員会会議録

(令和8年7月23日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和8年7月23日（木）
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	鷹野正志	副委員長	田中純樹
委員	池田栄次	委員	吉田茂生
委員	石川秀夫	委員	金繁典子
委員	中野光博		

欠席委員

なし

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	土居章二	主幹	尾川美保
--------	------	----	------

説明のため出席した者

なし

本日の委員会に付した案件

（１）所管事務調査

□「移住を含めた親子留学について」

開 会	11時20分
閉 会	12時00分

○田中副委員長 それでは、ただいまより総務文教常任委員会を始めます。

初めに委員長挨拶、よろしくお願いします。

○鷹野委員長 それでは全協に引き続きまして、総務文教常任委員会、全員の出席ありがとうございます。

今日は、今後どうするか。この間、リモートで研修を行いました。そのまとめになろうかと思うんですが、その辺を検討していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、引き続き進めさせていただきます。どうしましょう、もうここでまとめという形でよろしいでしょうか。で、9月定例会でまとめるということではよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そしたら、前回、研修といいますか、リモートで3つ、東洋町、馬路村等ありましたが、それぞれ皆さん感じるいろいろなあったかと思いますが、その辺、それぞれ意見をお聞かせ願います。

私が思うたのが、委員長で個人的な意見なんですけど、なかなか難しい問題、広範囲にわたるなど。それで、まあ東洋町とまた馬路村にしたらちょっと取り扱っている環境なり、政策なりが違ってきていて、これも本町、愛南町にとっては、今後どういう方向でもっていくのが一番、今後の愛南町のためになるのか、その辺の問題をまとめて、まあ個人的にまとめるのも何か難しいなというのが最初の印象でございました。

皆さんはどうでしょうか。移住を含めた親子留学について、まとめたいと思います。

石川委員。

○石川委員 阿南市の吉井小学校というのは特徴のある授業体系、そして、児童に対して自らが学ぶ力を養うということで、学校のカリキュラムのコマ数も午前中に5コマですか、午後に1コマ。1コマ当たりが45分から40分ということで、45分ぐらい早く、通常の学校よりも切り上げて、自主的な学習をして、なおかつ学習能力は十分上がっていると。先生の拘束時間も短くなっているということで、これはかなり、小規模特認校としては面白い取組。

それと、馬路村やったかな、あっ東洋町か、東洋町は小中一貫校で、留学も目指しているということで取組はしておりますが、まだまだちょっと知名度がないということで、数がまだ増えてきていないというのが実態だということだったと思います。

馬路村については、全国的に有名な関係もあって、かなりの留学生が入って、まあ定住というか移住ということで入ってこられているようです。

それを、いいとこ取りして掛け算したら、私は結構面白いことが愛南町でもできるんじゃないかなと。住宅設備については、まだ教員住宅等も使えるところも十分あるので、その辺りを改修すれば十分できるし、今、統廃合向けて、小学校、中学校ということで統廃合を考えていますが、私は縦軸でこの小中一貫校というのは、私は面白い取組であるし、それと併せて、その阿南市の取組を掛け算していけば僕、かなり面白いことができるんじゃないかなというふうに思っています。今、その一本松小学校、中学校とかいうところがまだ地区に小学校、中学校が残っているということを考えれば、私はモデルケースとして、そういうことを委員会として政策提案していくのは十分ありかなというふうに思っています。

○鷹野委員長 ほかに意見はありますか。

副委員長。

○田中副委員長 すいません、何か全然分かっていないというふうに言われたらそれまでなんですけれども、そもそもの、じゃあこれのKPIというのは何なんだろうねということですよ。ということは、皆さんがどういうふうに思っているのかなということですよ。それに対する、だから費用対効果みたいなことを考えなければ駄目、だから商売的になっていると思うんですよ。

実際、初めの吉井小学校の校長先生が言われたのは、あれですね、内容よりもちゃんと知っ

てもらおうということ。よい学校だから人が集まるんじゃないくて、よい学校だと知ってもらえるから人が集まるというふうに言われたんです。まあ確かになとかって思っ。だからこれは、公共的な仕事でありながら、いわゆる、ちょっとしたビジネス的な要素とか、プロモーションさせないと駄目ということを見ると、そういうもんだなと思うんですよ。

なので、僕はちょっとゴールがちょっと分からないんですけど、例えば、何人集まったからとか、まあ何人集まったとかでもいいんですけども、それが今後どういうふうにつながっていったから、いいと。例えば働いてくれたとか、就職してくれたとか、関係人口とかじゃなくて増えたということとかもそうだろうし、じゃあそこら辺ってちょっと曖昧じゃないですか。来てもらうのはいいなとは思うんです。それは多分皆さんも思っていると思うんですけども、ちゃんとしたゴールみたいなのがちょっと見えないというところがあるので、それをちゃんと見据えた上で、じゃあこういうことをやりましょうというふうな話かなと思います。

以上です。

○**鷹野委員長** まあ今、田中副委員長の、どういふのを理想にするか。だからまあこれが愛南町にとってのゴールと思うんですよ。だから、それぞれの視察したところのいいとこ、いいところなんだけれど、移住を含めた親子留学、今後、愛南町はこれに対してどうあるべきなのかということですよ。

池田委員。

○**池田委員** なかなか移住を含めたという、まあ一足飛びに、移住を含めたというテーマで研修をさせてもらたんやけど、一足飛びではなくて、阿南市の学校の取組なんかは、先ほども言われたように40分、5分コマ縮めて40分1コマにして、それで余裕のできた分を、1週間に分けて、地域の学習とか、地域の生産者とか、グローバルなこととか、アートとか、いろんなことに、体験学習に充てているということで、そういうことを取り入れながら、まあ今の愛南町のどこの学校なのか分からんですけど、一本松なら一本松でやったらいいんじゃないかということで、そういうことでまあ、ほんで愛南町だったら海業なんかもあります。そういうことと連携しながらやるとか、防災のこともありますし、そういうことを取り入れて、魅力化、魅力を出しながら、そういう実践が成果を出してきたときに、もし、もしいうか、この学校の魅力を感じて、移住しながら入学していただく方がおられればというような段階を踏んでいったらいいんじゃないかなと思います。

○**鷹野委員長** ほかに、どうですか。

金繁委員。

○**金繁委員** 私も、石川議員がおっしゃっていたように、阿南市の取組が非常に、面白いというか、必要性もあり、また将来性もあるものではないかと思ひます。というのはその、学校のその内容の、学校の目的として、その挑戦の目的としてやっぱり子供主体で考えられていて、子供が自ら考え判断し行動する力を育てるということで、これだけそのAIが発達してきて、これまでどおりの学習、学校の在り方では、生きていく力というか、自分で自分の幸せをつかんで生きていく力というのはなかなか育めない。いろんな体験を通して、自らが考え判断し行動する力を育てるってやっぱりこれから主眼に置かないといけないですし、2030年に予定されている、文科省の変更される予定の学習要領の中でもその方向性であるというようなお言葉もあったかと思ひますので、愛南町としても、子供主体に考えてもやはり学校の内容というのを変えていく必要があると。それが愛南町内の全ての学校でそれができるか、するべきかといったら難しい点もあると思うので、先ほど池田議員がおっしゃっていたみたいに、愛南町の学校の幾つかの中の一つの学校でそれをチャレンジしていくということは、愛南町の子供の将来にとっても必要なことだと思います。で、その学校を選べるということが非常に大事になってくると思ひます。

子供主体とは別にまた町の在り方から見たときも、そもそも今回の視察というか研究の目的

というのは、南宇和高校に県外生を受け入れるということで、その前段階としてやっぱり小中学校のところから、やっぱり子供が増えていくということを考えていくべきではないかということから始まったかと思います。

高校へつながっていくっていう、町がこう元気になる、地域がこう人口が増えていくということに緩やかにつながるという意味でも、現在、私たちも視察してきたその教員住宅の活用ということが急がれますし、なかなかその移住、その、空き家バンクなどありますけれども、いきなり購入、大金を出して購入して移住するということは極めて珍しいと思います。やはり気軽に入って行って、その地域の人々と触れたり、学校教育に触れたりして、ここに住みたい、住んでもいいなと思っていただけたというのが大事だと思うので、教員住宅のようにすぐに提供できる、家賃の支払いで住んでいただけたところをやっぱり早急に準備していただくということが重要になってくると思いますので、そちらも併せて、できるだけ早く準備をしていただけたように、報告書の中でまとめていただけたらと思います。

自然の中で体験できるというのは、ほかの東洋町と馬路村もそうなんですけれども、やはりそれだけではなかなか、山村留学として1年とか短い期間になってしまうかと思いますが、教育の内容が阿南市のようにしっかりと考えられて、子供主体で考えられているところには、転入希望も継続的にくるでしょうし、やはりその、校長先生がおっしゃったように、保護者の教育への関心というのがすごく高いと。そこからやっぱり入ってくるというところが、東洋町と馬路村は自然の中でっていうところが主でしたけれども、やはり保護者の関心が、教育への関心が高い方が入ってくる、そして定住性も高くなるのではないかと考えられますので、しっかりとその学校教育の内容というところも、今、未来の学校在り方検討会で協議していただいていると思いますけれども、その中でしっかりと、今回、一緒に視察もしていただきましたので、検討していただければということを入れていただきたいと思います。

以上です。

○**鷹野委員長** 今のところ皆さん、阿南市のあれですね、特認校の進め方ということで、特色ある学校づくり、指導要綱も、3年ぐらい前かな、変わって、今までの教える教育から、何ができるようになったか、そういった教育をやるというような文科省の進め方がありました。そういった中で、この阿南市はそういったことにしているのかなと。ただ、愛南町の特認校といえば、もう全て特認校という考え方ではないのかな。どこでも行けるんよね、今は。

(発言する者あり)

○**鷹野委員長** 補佐。

○**尾川主幹** すいません、愛南町自体は、小規模特認校というふうな分野でいくと、大規模校が1校もないので、言ったら、希望して、校区外通学の許可をもらって、内容が認められれば許可が出てそちらに通えるという形です。

○**鷹野委員長** 金繁委員。

○**金繁委員** すいません、多分、原則と例外が逆になると思うんですよ。愛南町はまだ、その原則、校区内に行ってください。例外として、一定の事由があれば、校区外を認めますと。でも特認校になると、もうどこでも好きなところに行っていていいですよ。もう原則、子供・保護者が行きたい学校を選べますというのが原則になるので。原則というかまあそうなりますよね。方向性としては特認校が増えてきているという現状だと思います。

○**鷹野委員長** ということはまあ今許可制で、愛南町の小中学校だったらどこでも行けるということなんだけど、今言うような阿南市の取組をするのであれば、愛南町にも特認校として、特認校づくり、特認校をするような方向性をつくったらどうかというようなまとめ方というか、考え方でいいんでしょうか。これちょっと分からんから。

吉田委員。

○**吉田委員** それはちょっと飛躍し過ぎだと思います。そこまでは全然無理で、これ、阿南市でも、

例えば吉井小学校についてはうまくいっているけども、全体としてはどういう状況なのかも全然分からないし、すごい、極めて危険な状態で、小規模校に、特認校にしていきたいと思いますというのはちょっと、それは方向性が違うというか、一部考えていくのはいいことだと思うんですね。ただ、今回一番大きなテーマは、やっぱり人口を増やしていくというところも一番大きなテーマの中で、山村留学とか親子留学をしながら、高校までずっと南宇和高校にいてもらえる人が増えれば、そこは安定的にできるのかなというふうに思いますので、一つの案として、小規模特認校も、まあ案としてはいいと思いますけれども、そっちの方向に行くのはこれ極めて危険だと思います。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 特認校にすぐするよにという報告をする必要はないとは思いますが、一番大事なのはどんな教育をするべきかで、それは保護者の方たち、もちろん子供たち、そして地域の方たちも交えてやっぱり話し合っ、特認校を希望するという意見があれば、やはりそれも考えていったらいいのではないかと思いますので、今、学校の未来在り方検討委員会のほう是非公開で議論が進められていて、やっぱりその、もう今年中、12月には一定の結論を出してしまうということなんですけど、やっぱりオープンに、委員の中にもこういう特色ある学校を考えてみたいという意見が結構当初の委員会の中で出されていたので、当然検討はされると思うんですよ。なので、今回の視察も見ていただきましたので、ぜひ具体的に考えていただくと同時に、保護者や地域の方にも、こういう学校があるけれども御意見どうですかというような投げかけ方もしていただけたらというのが私の考えです。

以上です。

○鷹野委員長 まあ……

あっ、どうぞ。

○池田委員 ちょっとあれかもしれんですけど、さっきも申し上げたように、子供、皆さん言われるんやけど、子供がつくる、一人一人の子供が伸びる学校とか、自ら問いを追究する探究心を持った主体的に行動できる児童を育てるとかっていうことをテーマに、学校のほうの教育でそのテーマに、カリキュラムの再編や、さっき申し上げたような教育をすることも一つじゃないかと。まずその体制を整えて、地域の協力も要りますし、何もかも要りますので、それを第一歩にすべきじゃないかと。ほいでいろいろありますよ、特認校にして、まあそこが特認校になれば、皆の意見でこれを特認校にしよう、どこからでも来られるようにしようということもあろうけど、そこら辺も、例えば阿南市なんかやったら、通学に関しては保護者が責任を持つてというようなあれもしておりますし、そういういろんなこともあるので、まずは、まずはその教育、そういう一人一人の個性を伸ばせるような子供を育てるということで、まあいろんな、まあ芸術でもいいし、専門家でもあるし、地元の人でもあるし、そういう体験を積ませるような教育をしたらどうですかという提案のほうがいいと思います。それが、それからそういう山村留学とかいろんなのに結びつけるような教育体制をつくるべきではないか、というのがいいとは思いますが。

○鷹野委員長 ということは、その、まあ山村留学とかにつなげる教育内容の充実を、保護者なり、明確化していくような学校づくりをしてくださいという方向性も必要ということよな。

田中委員。

○田中副委員長 多分、金繁議員が非公開で学校未来の在り方検討会をやられていると言われたんですけども、確かにそこは公開してほしいなというところもありますけど、要は、言いたいことは、我々ができることというのは、別に教育畑もそうだろうし、例えば総務分野にもそうだろうし、要は多岐の、いろんな課にまたがったところの予算化だったりとか、そのシステムというところを構築するっていう、それを提案できたりするっていうことが我々の一番の、最大の特徴であるので、餅は餅屋じゃないんですけど、そういう、いろんな人たちにその分はち

やんとしっかり考えてもらいましょうと。で、吉井小学校の内容とかっていうのはすごくすばらしいんですけど、それが実際にやれるかどうかとか、どこまでもってこられるかというのはまたそれは学校教育課にお願いしようというので、我々で考えるんだったらじゃあその住宅はどうしましょうとか、移住してきたときに補助金が出るのか出ないのか、親の仕事はどうすればいいのかとか、親の仕事のあっせんまでしますとかいうことを含めて話すべきだと。だから目的が地域の人口を増やすということであろうし、南宇和高校までちゃんと就学してもらおう、だからまあ、例えば小学校1年生が来たら、それから9年、何年になるんですかね12年ぐらいですかね、12年は愛南町にいてくれるわけですから、その分やっぱり、言葉は悪いですけども税金を支払っていただけたりと、後々には愛南町のためにすごい働いてくれるっていう人材を育てられるかもしれないということで行くと、当然その授業だったりとか、子供のカリキュラムというのはすごく大切だとは思いますが、そこら辺の全体的な親の、親に対する、親もすごくすばらしい愛南町で、よその親に対して、友達に、愛南町はいいから留学しなよとかみたいな感じで言ってくれるっていうふうなほうが大きいなと思うんです。なので、留学っていうからやっぱりその子供のほうにどうしても視線が行ってしまうんですけれども、家族を含めたケア。だから都会で本当は仕事でしんどいんですよ。でもここでテレワークでできますよと。テレワークの準備は全部します。じゃあそれを愛南町が補助しますとかっていうところを、我々が補助金をそうやって認めてあげるとか、そういうところになるのかなと思います。

以上です。

○**鷹野委員長** 今の小中学校でも、各校長が自分の学校をどうしようかと、グランドデザインをちゃんと明確化して、ホームページとかにも載せておるはずなんですよ。だから、その学校での特色づくりを、それぞれの学校長はグランドデザインとして出していると思うんですけど、その辺の枠をもう一個超えた学校づくり、他校にはない、こういうことをうちの学校はしますよというような、そういった教育方針。そういうのを、それぞれの学校はしとるはずなんよ、グランドデザインで。今、私がちょっとまとめて持っていくんやったら、それを超えた特認校的になるような学校教育を本町としてもやるべきなのか、というまとめじゃあいいのよね、という。分かん。

石川委員。

○**石川委員** いきなりその全部が全部、小規模特認校とかいうことじゃなくて、やっぱりこういう形のモデル校をつくりませんかという方向性を……

○**鷹野委員長** モデル校。

○**石川委員** モデル校。で、文科省の学習要領で許容される範囲で、吉井小学校は5分のコマを減らして40分にしていると思うんですよ。だからその辺りも含めて、知識というのは今からAIも出てきて、コンピューターから幾らでも入ってくる話なので、やっぱり、子供がやっぱり創造的に取り組める学習というのは何かということを追求しているのが、ある意味、吉井小学校のモデルじゃないかなというふうに思っているんで、やっぱりモデルを愛南町も一つつくって、魅力ある小学校か中学校かのモデルをこういう形でつくりませんか。さっきの2030年にはいろんな学習要領が変わってくるというような話もあるので、だからその準備段階としても、2030年に向けて愛南町も取り組みませんか。そのために一つモデル校をつくってはいかがですかというような政策提案が、私は望ましいんじゃないかなと思います。まとめとしてはですよ。

○**鷹野委員長** 田中副委員長。

○**田中副委員長** 内容はそういう授業の内容とかじゃなくて、今回は移住を含めた親子留学ということになっているので、特認校をつくりますということじゃなくて、特認校の内容じゃなくて、学校の、じゃなくて、全体的なことだと僕は思うんですよ。だからまあ目的は、だからやっぱ

り地域の人口を増やすというところで、じゃあ移住を含めた親子留学ということが今回テーマなので、それでいくとちょっと外れているかなと。内容、中身はいいと思う。だからその授業の内容とかをどういうふうにするとか、そういう特認校をつくりましょうということは全然いいとは思いますが、今回の所管事務調査のタイトルからすると、ちょっとずれているのかなと思いますけど。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 小学校の特徴ある教育というのは、それ自身が魅力になって、移住を呼び込むこともありますし、先ほどもちょっと言ったんですけども、掛け算で、まあ吉井小学校のことばかり私言っているように思いますが、小中一貫校とか、留学、馬路村のような留学の方法もあるので、そこは掛け算で、政策提案したらいいかなと。だから教育は教育として魅力が、こういう魅力をつくりませんか。プラス、留学の方式としては馬路村のような方式もある、移住定住をメインにしたような形もある。だからそのいいところ取りをして、政策提案をしませんかというのが私の意見です。

○鷹野委員長 池田委員。

○池田委員 田中委員の言うこともよう分かるんですけど、最初はそれでスタートして、ウェブ会議、研究しました。その結果、まずこういう段階を踏んで、こういうことを目指してこういう段階、そういう移住を含んで留学してくれる人口を目指すんですけど、いろいろ3パターンを見た結果、研究した結果、まずはこういう学校づくりを、教育をする、魅力的な教育をする。まあ各、今でも校長先生がやられよるその中で、やってみようかって、それでいこうという学校があれば、あればというかそれを、さっき言われたようにモデルケースとしてやってみたらどうであろうかというのは別に、まあ言われるのは確かにそうなんやけど、それからそれを結びつけていく前段階で一足飛びにはちょっと難しいところがあるというか、そういう考えというかそういう結論もおかしいことはないと思います。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 私も今、池田委員の言われたこと、石川委員が言われたことと同じ方向なんですけど、さらに根拠づけというか、なんですが、東洋町とか馬路村というのは自然の中で暮らせますという山村留学なんですけど、これもう日本の全国どこでも、大都会以外は過疎化・少子化が進んでいて、なおかつ自然の中で暮らせますというアピールポイントは共通していると思うんですよ。

やっぱりその中で、愛南町という交通も結構、四国の端っこでという場所的な、地理的な不利を克服するという意味でもやっぱりそれだけの魅力がないといけない、人を引きつける魅力がないといけないという点で、やっぱりその、単なる山村留学というほかと同じことだけではなく、教育内容が魅力的である、これからの時代に合致して、ここで子供に育ててほしいと思ってもらえることがとても重要になってくると思うので、やはり池田議員がおっしゃられたように、最初は山村留学、親子留学というテーマでやりましたけれども、やはり3つのパターンを総合的に考慮した結果、学校の教育内容というのが、子供にどのように育ててもらうか、どのような人になってほしいかというところも踏まえて考慮してほしいということをぜひ入れていただけたらと思います。

でまあそれはまあ高校も同じことで、県外の生徒さんがたくさん来てほしいけれども、やっぱり全国ほとんどの学校で、自然環境が豊かなところで高校生活を過ごせますというのは、ほぼ同様だと思うんですよ。その中で今、愛南町、南宇和高校の特色をどうするかって、行政も学校も地域の人も協力して、ワークショップをして、一生懸命やっているところで、なおかつ外的要因としては高校の無償化が進んできて、もう私立高校まで、かなり特色のある私立高校まで無償化されるという中で、かなり激化した競争になってきているので、やっぱり魅力化というところが本当にきもで重要だと思いますので、ぜひセットとして提案できたらと思います。

す。

○**鷹野委員長** そしたら、今までのを総合しますと、取りあえずその魅力ある、魅力化と、する学校づくり、これがまたその、移住を含めた親子留学につながるのはもちろんだけど、それに対する環境づくり、その住宅なり、親のその仕事関係なり、まだまだこの問題点はありますよというようなもっていき方でいいんですかね。

(発言する者あり)

○**鷹野委員長** だからまあ、石川委員の言ったそのモデル校的なその学校づくりやないけど、それをして、外部からも呼べるような学校づくり、それが広まれば人口増加、ほかからも呼び込めるというようなことでいいのかな。

石川委員、どうですか。そういう方向なんですかね。いまいち……

○**石川委員** この委員会としても、議会としても、政策提案ができるだけで、執行権はあくまで執行部にあるわけであって、我々が研修した、視察した内容、これをやっぱり政策提案で、報告書としてまとめていく。これが、今回のテーマが移住を含めた親子留学についてということなので、私が先ほどから言っているように、この3つの研修の、視察の、視察研修のいいところ、特に吉井小学校と、田舎で山村留学をさせる東洋町と馬路村、このいいところ取りをして、モデル校をつくっていったらどうでしょうかという政策提案までじゃないかなというふうに思っています。

だからそういうまとめ方で私はいいいんじゃないかなというふうに思いますので、まとめは委員長・副委員長に、一任はしたいと思うんですが。

○**鷹野委員長** 今、石川委員の言ったような方向でよろしいですか。ほかの委員の皆さん。

中野委員、何かありますか。

○**中野委員** 誰も言わなかったら10分ほど時間をもらおう思うけど、こんだけ出たのもう、みんな違う。ほいて、ちょっともう、報告ができた時点でちょっとみんなに回してもらって、皆さんの意見があったりした部分を・・・委員さんの意見もあれば、その辺りまた。

○**鷹野委員長** 池田委員。

○**池田委員** 委員長・副委員長に一任いたしますので。

○**鷹野委員長** 今、まとめしたら委員長・副委員長に一任ということが出ました。

そしたら一応、まとめてみます。それでまたタブレットか何かで皆さんにお知らせして、訂正とか意見を聞いて、最後に本題のまとめとするという方向でよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○**鷹野委員長** そしたら、その方向で行きたいと思います。それで、9月定例会で提出するというのでよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○**鷹野委員長** はい、そしたら。

○**田中副委員長** 以上で総務常任委員会を終わります。

委員長